

徳島県の地震

令和2(2020)年11月

目次

◎徳島県の地震活動

震央分布図・断面図	…	1
概況	…	1
徳島県で震度1以上を観測した地震の表	…	2
震度分布図	…	2

◎地震メモ

大地震後の地震活動について	…	3
---------------	---	---

*「徳島県の地震」は月1回発行し、徳島県及びその周辺の地震活動状況をお知らせするとともに、適宜、社会的に関心の高い地震について解説を行っています。また、「地震メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

*本資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

*本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

*この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

*全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。
<https://www.jma.go.jp/jma/menu/bunyaeq.html>

*大阪管区気象台管内（近畿、中国、四国地方）の地震活動は、大阪管区気象台ホームページに掲載の「管内地震活動図」、「週間地震概況」をご覧ください。
<https://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html>

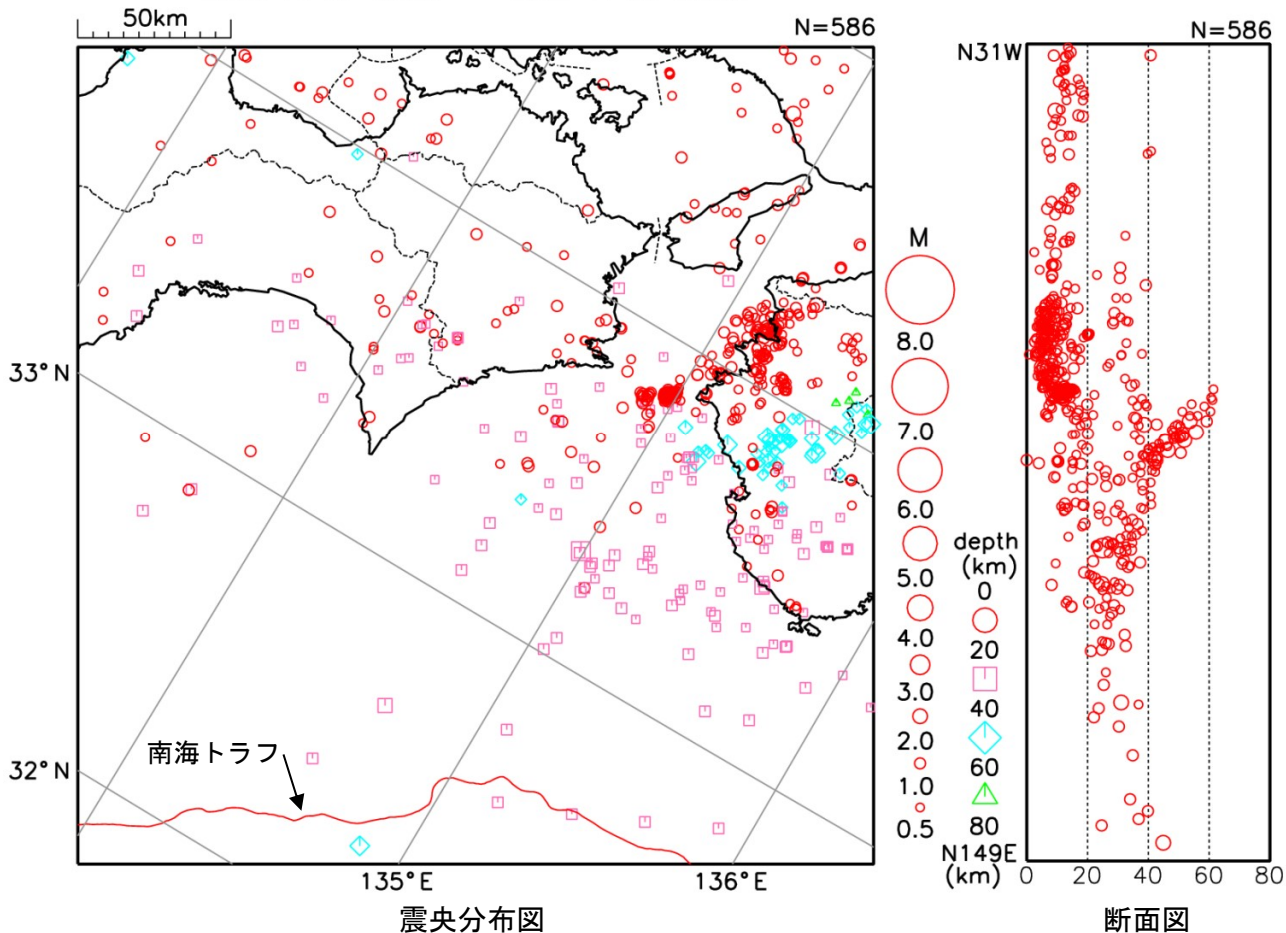
徳島地方気象台

(<https://www.jma-net.go.jp/tokushima/>)

徳島県の地震活動

震央分布図・断面図 2020年11月1日～2020年11月30日

2020 11 01 00:00 -- 2020 11 30 24:00



- ・ M0.5以上の地震を表示。
- ・ 図に表示する震源は、凡例のとおりシンボルの大きさとマグニチュード (M) の大きさを、シンボルの形状と色で震源の深さ (震央分布図のみ) を区分。

概況

2020年11月に徳島県で震度1以上を観測した地震は0回でした (前月は2回)。

徳島県で震度 1 以上を観測した地震の表

2020 年 11 月 1 日～2020 年 11 月 30 日

発震日 (年月日時分) 各地の震度 (徳島県内のみ掲載)	震央地名	緯 度	経 度	深 さ	マグニチュード
震度 1 以上の地震なし					

震度分布図

震度 1 以上を観測した地震なし。

【地震メモ】大地震後の地震活動について

大きな地震の後には、多くの場合、その近くで引き続いて多数の地震が発生します。普段から大きな地震に備えることはもちろんですが、いざ大きな地震が発生した場合には、その後引き続いて発生する地震にも注意する必要があります。

気象庁は、最大震度5弱以上が観測された等の大地震が発生した場合に、約1～2時間後から、今後の地震活動の見通しや防災上注意すべきこと等について発表しており、その主なポイントは以下のとおりです。

なお、気象庁は基本的に震度5弱の地震で資料による報道発表、震度5強以上の地震で記者会見による報道発表を行っています。

<大地震後の地震活動に対する防災上のポイント>

- ・ 1週間程度は、最初の大地震の規模と同程度の地震に注意することが基本です。
- ・ 特に、地震発生後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。
- ・ 付近に活断層がある、過去に同程度の規模の地震が続いて発生したことがあるなど、その地域の特徴に応じた呼びかけが発表された場合は、それにも留意してください。
- ・ 最初の地震の強い揺れにより、落石や崖崩れなどが起こりやすくなっている可能性があります。震度6弱など特に強い揺れのあった場合は、これらに加え、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性も高まっているおそれがあります。

もう強い揺れを伴う地震は起きないとは決して思わず、その後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情が無い限り危険な場所には立ち入らないなど、身の安全を守る行動を心がけてください。

平成28年(2016年)熊本地震の発生をふまえ、大きな地震の後に引き続く地震活動の様々な事例に対応可能な防災上の呼びかけを行うために、平成28年8月19日に地震調査研究推進本部地震調査委員会から「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」報告書が公表されました。大地震が発生した場合には、気象庁はこの報告書にもとづき、地震活動の見通しや防災上注意すべきこと等を発表します。

なお、気象庁は同報告書の指摘に沿い、防災上の呼びかけ等においては、さらに規模の大きな地震への注意を怠ることのないよう、「地震」という言葉を使用します。

大地震後の地震活動の詳細は、気象庁ホームページをご覧ください。URLは以下のとおりです。

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/aftershocks/index_whats_aftershock.html

また、「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」報告書は、地震調査研究推進本部ホームページをご覧ください。URLは以下のとおりです。

https://www.jishin.go.jp/reports/research_report/yosoku_info/